

## 平成25年度新生児聴覚検査実施状況のまとめ

平成26年12月

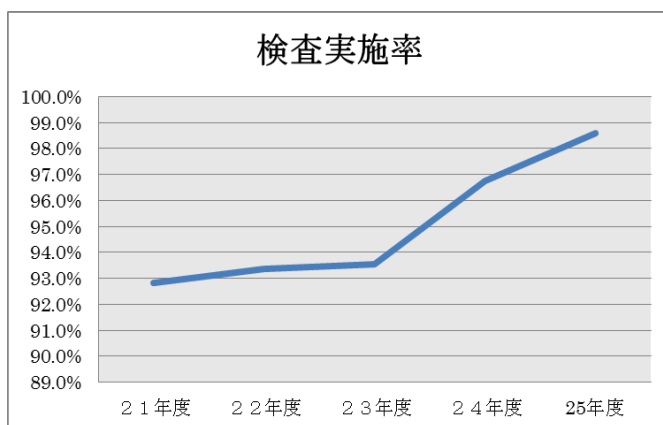
鳥取県福祉保健部子育て王国推進局子ども発達支援課

- ・新生児聴覚検査は、聴覚障がいを早期発見し、早期に児及び保護者に支援を行うことを目的として実施している。
- ・平成25年度は、県内の分娩取扱産科施設16か所について実施状況の調査を行った。(※昨年の検査未実施施設1は H25 年秋から検査を開始)
- ・県全体の検査実施率は、年々上がってきており、平成25年度は98.6%(前年度比1.8%増)となった。
- ・このことは、医療機関等のご理解とご協力により、保護者の理解が進んだことによるものと考えており、新生児聴覚検査の早期発見及び早期支援体制の構築に繋がっている。

※この調査は、出産のための入院中に実施した検査結果をとりまとめたものであるが、出産した病院から NICU へ転院した場合、医療機関が異なる場合があるため、検査実施機関を「NICU 入院児を除いた状況」と「NICU 入院児」に区分して調査したものである。

### 1 新生児聴覚検査実施状況

- ・県全体の検査実施率は、98.6%(前年度比1.8%増)となった。



年度	検査実施状況		
	出生、入院 児数 (人) (A)	検査件数 (件) (B)	実施率 (%) (B/A)
25年度	5,731	5,648	98.6%
24年度	5,690	5,506	96.8%
23年度	6,073	5,682	93.6%
22年度	5,837	5,449	93.4%
21年度	5,608	5,205	92.8%

#### (1) NICU 入院児を除いた状況

##### ①実施状況

- ・検査実施率は98.9%であり、前年度と比べ1.8%増加した。  
(H22年度：93.4%、H23年度：93.6%、H24年度：96.8%)
- ・未実施の理由は転院 (NICU 含む) の他に「費用がかかるため、保護者が希望しない」が多かった。
- ・実施率を圏域別で見ると、東部は98.7%(前年度比0.1%減)、中部圏域は97.3%(前年度比0.3%減) 西部圏域は99.7%(前年度比5%増) となっている。
- ・精密検査紹介件数は、確認検査 (1ヶ月検診時) でリファーとなった児を精密検査機

関へ紹介した件数である。

圏域	検査実施状況			入院中検査			確認検査(1ヶ月健診時)		精密検査紹介数		
	医療機関 出生児数	検査 件数	実施率	パス	リファー	リファー 率	パス	リファー	県内 耳鼻科	県外 耳鼻科	その他
東部	2,108	2,080	98.7%	2,043	37	1.78%	25	12	※1 12	1	0
中部	891	867	97.3%	864	3	0.35%	0	0	0	3	0
西部	2,173	2,166	99.7%	2,146	20	0.92%	6	14	14	0	0
合計	5,172	5,113	98.9%	5,053	60	1.17%	31	26	26	4	0

※検査結果：パス→正常、リファー→要再検査

※1：確認検査ではパスしたが、精密機関で検査し片耳難聴となったケースを含む。

## ②検査機器別実施状況

県全体としての検査機器ごとのリファー率は下表のとおりである（併用はAABRに計上）。  
検査実施16施設のうち、AABR使用は9施設（56.3%）、OAE使用は5施設（31.2%）、併用2施設（12.5%）である。

検査機器	検査件数 (B)	リファー (C)	リファー 率 (C/B)
AABR	3,868	14	0.36%
OAE	1,245	46	3.69%
25年度合計	5,113	60	1.17%
(参考) 24年度合計	4,997	36	0.72%

※併用はAABRに計上

## (2) NICU 入院児の状況

- ・全体の検査実施率は、95.7%であり、昨年度と比べ0.3%減少した。
- ・実施率を圏域別で見ると、東部が91.4%（前年度比1.4%減）、中部は92.5%（前年度比1.4%減）、西部は100%（前年度同比）となっている。

圏域	検査実施状況			検査結果			精密検査紹介数		
	医療機関 入院児数	検査 件数	実施率	パス	リファー	リファー 率	県内 耳鼻科	県外 耳鼻科	※その他
東部	220	201	91.4%	196	5	2.5%	3	0	2
中部	67	62	92.5%	62	0	0.0%	0	0	0
西部	272	272	100.0%	266	6	2.2%	6	0	0
合計	559	535	95.7%	524	11	2.1%	9	0	0

※NICU 医療機関では、すべてAABRを使用。

※その他：死亡1，多発性奇形により人工換気中1

## 2 精密検査実施状況

(1) NICU 入院児を除いた状況

①精密検査の受診状況

新生児聴覚検査の結果、県内の産科が県内精密機関（※）を紹介した件数は26件であったが、精密検査機関を受診したのは28件だった。（産科が紹介した件数<精密検査実施件数）

圏域	精密検査紹介数（1ヶ月健診）			受診状況 精密検査 受診者数
	県内産科か らの紹介	県外医療機 関から紹介	その他	
東部	12	0	0	16
中部	0	0	0	1
西部	14	0	0	11
25年度小計	26	0	0	28
(参考) 24年度小計	8			8

※：県立中央病院、日赤病院、県立厚生病院、鳥取大学医学部付属病院、労災病院の5機関

②実施状況

出産のための入院中の検査でリファーとなっていた児が、精密検査の結果、正常とされたいわゆる偽陽性は、全体で26例中9例、AABRでは10例中3例（30.0%）、OAEでは、16例中6例（37.5%）であった。

	スクリーニング結果					精密検査結果			
	県内産科か らの紹介	県外産科か らの紹介	検査機器	結果	人数	一側難聴	両側難聴	正常	確定診断 未
全県	28	0	AABR	一側リファー	5	2	1	2	2
				両側リファー	5	0	4	1	0
			OAE	一側リファー	13	5	3	5	0
				両側リファー	3	0	2	1	0
合計					26	7	10	9	2

③難聴児の聴力の内訳と紹介件数

NICU 入院児を除いた難聴児の聴力の内訳は以下のとおりである。県内の聾学校への紹介は4件、県外の難聴児教育施設へ紹介された事例は2件だった。

	程度	一側難聴	両側難聴	正常	※不明	紹介件数		
						県内の 聾学校へ	県外の難聴 児教育施設 等へ	その他
全県	軽度難聴	3	1	9	3	4	2	0
	中程度難聴	2	7					
	高度難聴	2	1					
合計		7	9	9	3	4	2	0

※不明：確定診断未2、ドロップアウト1

(2) NICU 入院児の状況

### ①精密検査の受診状況

新生児聴覚検査の結果、精密機関への紹介は9件あり、精密検査機関を受診したのは3件（県外からの紹介1件を含む）だった。

圏域	精密検査紹介数			精密検査受診者数
	県内NICUからの紹介	県外医療機関からの紹介	※その他	
東部	3		2	0
中部	0			
西部	6	1		3
25年度合計	9	1	2	3
(参考) 24年度合計	8		0	8

※その他：死亡1，多発性奇形により人工換気中1

### ②実施状況

出産のための入院中の検査でリファーとなっていた児が、精密検査で正常とされたいわゆる偽陽性は3例中0例（0%）であった。

	県内NICUからの紹介	県外医療機関からの紹介	スクリーニング結果		精密検査結果			
			検査機器	結果	一側難聴	両側難聴	正常	確定診断未
全県	2	1	A A B R	一側リファー	0	2	0	0
				両側リファー	0	1	0	0
合計					0	3	0	0

### ③難聴児の聴力の内訳と紹介件数

NICU入院児の難聴児の聴力の内訳は以下のとおりである。県内の聾学校への紹介は1件、県外の難聴児教育施設へ紹介された事例はなかった。

	程度	一側難聴	両側難聴	紹介件数	
				県内の聾学校へ	県外の難聴児教育施設等へ
全県	軽度難聴	0	2	1	0
	中等度難聴	0	1		
	高度難聴	0	0		
合計		0	3	1	0

## 3. 市町村及び保健所訪問指導実施状況

市町村保健師が新生児訪問の際に保護者から受けた相談件数である。

いずれのケースも新生児訪問時、確認検査でリファーとなり精密検査を勧められたとの相談に対し、専門機関への受診を勧めている。

区分	相談 件数	関係機関からの指導依頼				新生児訪 問での相 談	健診・予 防接種等 の場	その他の 経路によ る相談	電話相談
		新生児ス クリーニング実 施医療機 関から	聴覚精検 実施医療 機関から	保健所か ら	その他の 機関から				
東部圏城市町村・保健所	5	0	0	0	0	5	0	0	0
中部圏城市町村・保健所	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西部圏城市町村・保健所	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	5	0	0	0	0	5	0	0	0

#### 4. 療育・教育指導実施状況

県内精密検査機関から5件、その他の2件は紹介ではなく、聾学校を知っていた保護者が自発的に相談に来たものである。

療育・教育機関	人数	紹介者		
		耳鼻科医	保健師	その他
聾学校	7	5	0	2
その他	0	0	0	0
合計	7	5	0	2